

# 町史編さんだより 『東京オリンピック聖火リレー 日野町の“いだてん”たち』



【写真】オリンピックの翌年（昭和40年）から、地域のスポーツ少年団の結成が呼び掛けられ、昭和41年には初の大会が開催

「日野町誌 後編」の中から、55年前に開催された東京オリンピックで聖火リレーを担当した日野町聖火リレー隊を紹介します。



▲当時聖火ランナーだった安田（旧姓：秋葉）勝志さん（中央）、山川洋介さん（左）と、コーチを務めた生田秀正さん（左から2人目）  
◀トーチからトーチへ聖火を灯す様子を収めた写真も展示

写真提供：安田（秋葉）勝志氏



▲日本海を望みながら聖火を運ぶ日野町聖火リレー隊

日野町史編さん室（TEL 72-0341）

今年度（平成31年度）は、日野町が誕生してから60周年を迎えます。この記念事業の一つとして、新しい町誌の編さんを進めています。「日野町誌」は、昭和45年に発刊されました。新町誌は、日野町誕生以後のあゆみを主とするほか、自然環境の変化、また魅力ある歴史を特集的に紹介します。名称は「日野町誌 続編」で、現在、執筆がおおむね終了し、校正作業を進めています。

この中から、昭和39年の東京オリンピック聖火リレーに参加した日野町リレー隊の記事（町公民館報に掲載されたもの）を紹介します。

来年は、二度目となる東京オリンピック・パラリンピックが56年ぶりに開かれます。大会ムードを盛り上げるため、全国を巡回しているフラッグ（旗）が、平成30年9月14日、日野町役場ロビーに展示されました。

## 町民代表23人が 山陰道海岸コースを力走

昭和39年10月、東京オリンピックが開催されました。この聖火リレーに本町から町民の代表として23人が参加。9月24日14時40分、左手に日本海を見おろしながら、名和町（現大山町）下坪一本松から下木料三叉路まで2070メートルにおよぶ山

## 体育関係者、学校などの合同会議で人選

本町の代表選手は、あらかじめオリンピック組織委員会から示されている基準により、体育関係者、学校などの合同会議において4

月に人選されました。炎暑のもと7回にわたって強化練習を積み、若さあふれる整然とした行動が高く評価されました。選考された代表選手（敬称略、当時）は、次のとおりです。

【コーチ】生田秀正（町体育協会） 【正走者】秋葉勝志（青年団） 【副走者】高橋義之（根雨高）、神崎美奈子（青年団） 【随走者】鳥居信彦、池田文雄、林幸彦、小谷和子、柴田さとみ（以上根雨高）、谷内一典、松本宏紀、遠藤ふじ子、高木圭子（以上日野産高）、山川洋介、松村讓、田辺誠、若林顕恵、生田悦子（以上根雨中）、内藤剛、宇田政美、生田百合、高橋正恵（以上黒坂中）、松本元男（青年団）、大森啓武（米子工）



春は出会いと別れの季節。  
あなたの人生をちょっぴり豊かに、  
そして優しくなるために、本を読んで  
みませんか。

この春、町図書館があなたに届けたい  
おすすめの一冊を紹介します。



### 『糸子の体重計』

いとうみく 作 / 佐藤真紀子 絵 / 童心社

5人の小学5年生がそれぞれ  
主人公になる連作短編。クールでみんなの憧れの子が、実は自分の気持ちを素直に言えなかつたり、いつも明るく笑っている子が、誰にも言えずにお腹を空かせていたり…。憧れたり妬んだり、時には自分が嫌になったりしながら、少しずつ成長していく姿に、一步踏み出す勇気がもらえます。

読書は人生を豊かにする一。

# 本を読もう

~ Season 3 ~

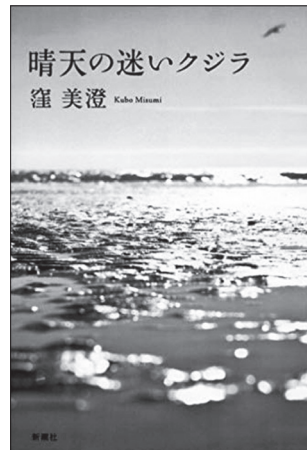
問合せ / 町図書館 (電話 72-1300)



### 『皇后美智子さまのうた』

安野光雅 著 / 朝日新聞出版

津和野出身の画家・安野光雅さんが、美智子さまの珠玉の短歌を紹介したエッセイ。今年退位される天皇陛下を支え続けてこられた皇后さまの人柄がしのばれるとともに、詠まれたうたは、「三十一文字の素晴らしい文学」と編集者も絶賛するほど。著者のやさしい水彩画とともに紹介します。(2014年刊)



### 『晴天の迷いクジラ』

窪美澄 著 / 新潮社

それぞれの理由で心に傷を負った由人、野乃花、正子の3人は、死を選ぶ前に湾に迷い込んだクジラを見るため、南の半島へ向かい…。 「うまくいかない人生」を描かせたらピカイチの作家さん。でも、ただ暗く苦しいだけじゃない。最後には読者の心を光さす方へ導いてくれます。人生の転換期に読みたくなる1冊です。



### 『かんぺきなこども』

ミカエル・エスコフィエ 作 / ポプラ社

マカロン夫妻の家に、ピエールという子どもがやってきました。夫妻にとって、完璧な子どもに見えたのですが…。完璧な子どもって、本当にいるの？ユーモアたっぷりに、家族について考えるきっかけをくれる絵本です。



### 『吉沢久子の旬を味わう献立帖』

吉沢久子 著 / 早川茉莉 編 / 筑摩書房

先日、101歳でこの世を去った吉沢久子さんの料理エッセイ。四季折々の献立が語られている中で、とりわけ春の素材を使った料理は格別です。セリやフキ、タケノコ、桜の塩漬け…。そのほろ苦さや独特の香りを思い浮かべると、背筋がピシッと伸びるような、新しい季節の始まりを感じます。